

2026 年 9 月 30 日

(一社)日本工作機械工業会

2026 年 8 月分工作機械受注確報及び受注関連状況について

1. 2026 年 8 月の受注額(確報)

(1) 総額

2026 年 8 月の受注総額は、前月比+2.5%(2 カ月ぶり増加)、前年同月比+64.7%(14 カ月連続増加)の 1,978 億 67 百万円となった。例年、季節要因から受注が落ち着くことの多い夏場にあつて、3 カ月連続の 1,900 億円超、本年 6 月(2,034 億円)に次ぐ歴代 2 位の高額を記録した。前年同月比の伸び率が総額・内需・外需とも 6 割を超える等、引き続き旺盛な設備需要が窺える。

(2) 内需

内需は 515 億 17 百万円で、前月比で▲3.2%(2 カ月連続減少)となったが、前年同月比は+61.5%と年初以来 8 カ月連続で増加し、3 カ月連続で 500 億円を上回った。データセンタの予備電源、冷却関連や半導体製造装置、発電に関する需要が依然活発で「一般機械」(211 億円、3 カ月連続の 200 億円超)や「電気・精密」(97 億円、前年同月比+192.6%、歴代 3 位)等の区分を押し上げた。「自動車」(88 億円)は 5 カ月ぶりに 90 億円を下回ったが、老朽機更新の大型案件もあつて比較的高めの水準を保ち、「航空機・造船・輸送用機械」は 3 カ月ぶりに 30 億円を上回った(32 億円)。この他、6 月に採択された省エネ補助金一次公募分に関連する受注や、一部会員での価格改定前の駆け込み受注も奏功したと見られる。

(3) 外需

外需は、前月比+4.6%(2 カ月ぶり増加)、前年同月比+65.8%(23 カ月連続増加)の 1,463 億 50 百万円で、6 月(1,454 億円)を超え歴代最高額を更新した。外需は昨年 12 月以降の各月が歴代 1~9 位を占め、特に 3 月以降は継続して 1,300 億円を上回るなど歴史的な水準が続いている。欧米が長期休暇の時期に入る 8 月において歴代最高額を更新したのは異例である。

主な地域別にみると、北米は宇宙産業や航空機関連で大型受注が集中した「航空機・造船・輸送用機械」(140 億円)や「一般機械」(125 億円)がそれぞれ歴代最高額を更新した他、「電気・精密」(58 億円)も歴代 2 位となる等大変力強く、北米全体としても約 500 億円(499 億 54 百万円)と歴代最高額を大きく更新した。「欧州」(203 億円)は長期夏季休暇により営業日数が限られたが、ドイツ(49 億円)が 2 カ月連続で本年としての最高額を更新した他、イタリア(32 億円)も 2 カ月連続の 30 億円超、

EUの「その他」も8カ月ぶりに40億円を超える等、EU圏を中心に改善の動きが感じられ、欧州全体として2カ月連続で200億円を超えた。

アジア(739億円)は、直近数カ月において歴代最高水準での受注が続いていた中国の「自動車」(115億円)が前月比で2割弱減少した他、「一般機械」でも韓国・シンガポールなどで大型受注が剥落し、前月比で2カ月連続減少した。しかし前年同月比は+71.0%と高く、全体的な活況に変化は見られない。

2. 今後の見通し

9月上旬に会員企業を対象に実施した、本年第4四半期に関する受注動向見通し調査のDI値が+8.7ptと増加するなど、年終盤においても引き続き高水準での受注が見込まれる。(スライド資料20頁参照)。

設備投資の周辺環境を見渡すと、恒常的に自動化・高効率化、環境対応に関する需要が見られ、長らく設備投資を控えてきたユーザを中心に老朽機更新の必要性が高まっている。その上で、技術革新に対応するための投資、様々な動機から生産拠点を見直す動きが強力なドライバとなり、設備投資の大きな流れを生み出している。

全体的に見て、データセンタや半導体製造装置に関する需要拡大が、多くの地域で見込まれている。その上で、更に地域別に見ると、北米は、米国の即時償却恒久化措置や国内での製造業誘致、利下げ効果が相まって、引き続きジョブショップ、エネルギー、建設機械、自動車、航空・宇宙関連、防衛関連等、幅広い分野で需要喚起が継続すると見られ、9月に開催されたIMTS(シカゴ)の効果も見込まれる。

同じく9月にドイツ・シュツットガルトで開催されたAMBについても、当初の予想より多くの来場者が訪れたとの感想を示す会員関係者が多く、7月・8月と窺えた欧州での改善傾向も持続すると見られる。

アジアについても、中国で引き続き、輸出向け自動車、通信機器、発電、ロボット等での需要が高原状態で推移すると見られる他、インドについても四輪車・二輪車、農業機械といった伝統的な需要分野に加え、航空機産業の成長の可能性に注目が集まっている。我が国はデータセンタや半導体関連での需要回復が先行しているが、航空機・造船等でのプロジェクト投資、自動車等での政策支援効果による老朽機更新の進展等、今後は幅広い分野での動きに繋がると期待される。内需が回復傾向にある中、10月下旬に開催されるJIMTOF(東京)への関心も高まっている。

一方で、国際情勢の変化が調達事情やインフレを通して設備投資に影響を及ぼす可能性、部品・部材の入荷遅れが納期に影響する可能性など懸念材料もあり、受注残も含め、今後も業界を取巻く諸状況の推移に留意していきたい。

【日工会受注に関するお問い合わせ先】

(一社)日本工作機械工業会 調査企画部 電話：03-3434-3961